

オケクラフト職人を目指して

オケクラフトの職人を育てる「オケクラフト作り手養成塾」が3年ぶりに開講し、入塾式が4月15日、山村文化資源保存伝習施設どま工房で行われました。

今年度より指導体制が見直され、塾長として中心的指導を担ってきたアトリエ・ときデザイン研究所の時松辰夫氏を名誉塾長に、主な技術指導は養成塾主任講師片岡祐士氏を中心として、町内の作り手が担います。経営やデザインは町内外の専門家を講師に迎え、2年間、森林工芸館などで基礎的な技術を学ぶこととなります。



写真左より長谷川さん、松本さん、石川さん

入塾したのは大阪府高槻市出身で旭川で家具メーカーに勤めていた松本佳悟（まつもと よしのり）さん、帯広市内の病院で管理栄養士をしていた長谷川香奈（はせがわ かな）さん、北見市出身で札幌市内の車両販売会社で営業職をしていた石川順（いしかわ じゅん）さんの3人で、いず

れもオケクラフトに挑戦するため、転職を決意し、工房を立ち上げる夢を実現しようと入塾しました。

石川さんは、「全く畑違いのことにチャレンジしますが、町民の仲間入りをし、オケクラフトの伝統を守り1日も早く技術を身に付け独立したい」と意欲をもやしています。



井上町長からは「作り手として独立を目標にがんばって下さい。置戸を好きになってイベントに参加するなどまちをよく知り、作風に反映させてほしい」と期待をよせました。

時松名誉塾長は「人生経験を積まれた諸君がモノづくりを志すことに敬意と感謝を表します。オケクラフトに花を添えるような作り手になって下さい」と励ましました。入塾式後、時松名誉塾長の特別講義で早速、研修がスタートしました。

オケクラフト職人養成制度は1984年にスタートし、これまで生徒49人が卒業し、うち17人が工房を開設しています。

おけと森林文化振興協会が設立されました

流通普及協会の組織を見直し法人化することによって、社会的な認知のもとに、オケクラフトの地域産業化を目指すために設立されました。事務所は森林工芸館内に置き、理事長に和田薫氏、副理事長に小野垣裕樹氏、専務理事に北山雅俊氏が選任され、オケクラフトをはじめ地域生産品の開発や製造、販売、販路拡大、クラフト生産資材の販売、モノづくり教室の企画など幅広い事業を展開することとなります。

